UTO ニットだより from Minamiaoyama

VOL. 19 2006夏

ホームページを一新しました。
www.uto-knit.com　是非ご覧になってください。

ワールドカップドイツ大会。日本代表は決勝トーナメントに進めずガックリ。
世界の厳しさを痛感していたら、ブラジルさえも敗退し勝負の厳しさに愕然。
でも、強い国が必ず勝つとは限らない面白さはサッカーもビジネスも同じですね。

遠い南国から山梨工場に長期滞在客です。ツバメ達が入り口の軒下にさっさと自分達の寝泊りするところを作りはじめました。
巣が落ちないように、下を出入りする人を汚さないように早速板で受けを作ってあげるスタッフの心遣いにうれしくなります。
巣作り、子育てにいそしむ彼らを見ているとなんだか和みます。
ツバメ御一行様・夏季限定長期御滞在中の札でも下げますか。

カロライナジャスミン

【最新の編機増設】

山梨工場がスタートして約半年。無いないづくしではじまった工場は皆の驚異的な頑張りで徐々に生産体制が整い回り出しました。自社工場だからこその『丁寧で妥協をしないものづくり』という第一の目標は今では僕の要求より彼らの実際のものづくりのほうがずっと厳しく心強く安心です。
基盤は出来たので次は生産増強ということで本生産に向けてもう一台編機を増設しました。
『沢山の素敵な色が揃った中から、お好きな色で、最も着やすい寸法のセーター。世の中に一枚だけのセーターを提供したい』といろんな工場を訪ねて協力をお願いして回り、『ロットがないと』、『暇になったら作ってあげる』、とか『夢みたいな話』とけんもほろろに断られ続けた10年間でした。
やっと実現した4年前、最初にカシミヤ受注会を開催して頂いた福井県武生のギャルソンさんの帰りに武生の駅で列車を待つ間、構内TVでワールドカップのブラジル・イングランド戦を見たのが走馬灯のように思い起こされます。

【カシミヤ受注会と現物販売会のお勧め】

バーゲンが一息ついたら秋冬前の閑散期、この秋に向けてノーリスクでノルマなしのカシミヤの受注会を募集中です。一週間ぐらいお店を一新してカシミヤフェアーを開催しませんか？現物もご用意出来ます。

ワイドリブカシュククール／P0

No. 1272 ¥53,000.-

手横ではなかなか出来ないカシュクールは自動機導入で可能になりました。ワイドリブと脇のボタンがポイントです。

フリル衿カーデ

No. 2228 ¥63,000.-

衿、前立て、裾にフリルの付いたカーディガン。フリルの巾をあまり長くしないことで甘すぎず全体的にすっきりした印象です。

斜めケーブルドルマン

No. 1909 ¥85,000.-

3ゲージの手横で、しかも斜めにケーブルを入れたボレロです。
ドルマンなのでフリーサイズで着れ、中に着こんでもAHにゆとりがあるので脇下がもたつくことがありません。

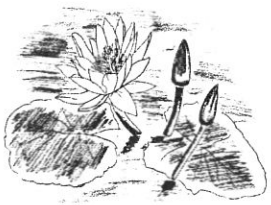
ファッション販売員の為の　＊　ニットの話　＊（十九）

毛玉（ピリング）の話

毛玉の科学・なぜ毛玉が出来るんだろう

毛玉のことを業界ではピリングと言います。人類が宇宙に行くほど科学は進歩しましたが、残念ながらそんな現代科学をもってしても決定的な毛玉の原因や対処方は解明されていないんです。
『安いカシミヤは毛玉が出来て、高いカシミヤは毛玉が出来ない』などと誤解している人もいますが、カシミヤをはじめ本物のウールなら状況によっては毛玉が出来てしまうんです。誤解を恐れずに言えば、『毛玉が出来るということは生きたウールの証し』ともいえます。毛玉が出来るメカニズムを知って頂きその知識の基に着用して頂けると毛玉が出来にくく気持ちよく着ていただけるんではないかと思います。

毛玉が出来るには主に2つの要因があります。『摩擦』と『絡まる』です。
セーターを着用するということは実はセーターを摩擦していること。毛玉が出来た状態とは、名前のごとく糸に撚り込まれていない部分の繊維同士が絡まって玉になっている状態です。
毛製品を長時間擦っていると撚り込まれている糸から表に出てきた繊維同士が絡まり始めやがて毛玉に成長します。この絡まりの元をピル核と読んでいますが、このピル核の誕生とピルの生成に大きな影響を与える要因がウールの繊維自身の特徴である『クリンプ』です。
天然のウールは（ウールは天然に決まってますが）繊維自体がカールしていてクルクルと丸まり易いという性質を持っています。このクリンプによって繊維が空気を抱え込み保温性を高める大事な大事な特性なんです。



ピル核誕生の元は主に『異物』と『静電気』です。異物と言っても目で見て目立つようなものだけではなく上着など他の繊維の切れたものや空気中に浮遊しているような埃のようなものが付着することでもピル核誕生の原因になります。また冬場に発生する静電気も繊維同士をくっつけますのでそれが元で絡まり始める場合もあります。

あまり知られていないのが『湿気』と『熱』です。この湿気と熱が実は大きなポイントなんです。擦って起毛した繊維の絡まる速度が、常温で普通に摩擦した場合に足し算のように毛玉が成長するのに比べ、湿気や水を与えると掛け算のように急激に毛玉が成長します。そこに熱、特に体温以上の熱が加わるとさらに毛玉の成長速度が速まるという現象が起きるんです。

長年カシミヤを扱ってきて実際に毛玉のクレームが起きたセーターを見てみると、何らかの要因で激しい摩擦が加わったのと湿気と熱がプラスされた3つの要素が合わさったケースが殆どです。
毛玉が発生している所を調査するとダントツに多いのが脇の下です。極端な例として、一回のゴルフで脇の下やお腹周りに毛玉が出来てしまったということもあります。このケースではカシミヤのセーターの上からウインドブレーカーを着て一日ゴルフをしたと言うことです。セーターを着て運動することはごく普通の行為ですが、気密性の高いウインドブレーカーを着て運動すると汗をかいたりして蒸れ蒸れの状態になります。この状況で腕を振ったり、クラブを振ったりするとたちま

株式会社ユーティーオー　〒107-0062 東京都港区南青山5-16-3メゾン青南10階 TEL:03-3498-2230 FAX:03-3498-2406 E-mail:uto@uto-knit.com URL:www.uto-knit.com

ち毛玉が出来てしまうことがあります。一日着ただけとか、一回ゴルフをしただけでも起こるケースです。

なぜ水分や湿気がこんなに影響するんでしょう。

それは最初にお話したクリンプともう一つのウール繊維の持つ特性にあります。

ウールの繊維を顕微鏡で見ると毛根から毛先に向かってスケールという魚の鱗のようなギザギザが付いています。このスケールが開いたり閉じたりするんです。スケールはキューティクルとも言います。そうです、シャンプーのコマーシャルなどでよく出てくるキューティクルです。

どうして、キューティクルが開いたり閉じたりするかというと、ウールの繊維は乾燥するとキューティクルを閉じて湿気が逃げるのを防ごうとします。逆に湿気や水があるとキューティクルを開いて取り込もうとします。このように生きているウールは呼吸するようにキューティクルを開いたり閉じたりして毛の中の水分を一定に保とうとするんです。これにより動物は自分の身を雨や極寒の外気や乾燥から身を守っているんです。キューティクルの開閉が生きている繊維の証でもあるんですが、このキューティクルが開いている状態で摩擦があるとキューティクルが閉じている時より何倍も早く絡まってしまうことは理解していただけると思います。

毛玉が出来るのは時間の問題でもグレードの問題でもありません。毛玉が起きる状況にあるかどうかなんです。

余談ですが、ウールの繊維も髪の毛もたんぱく質で出来て基本構造は同じです。一見つるんとしているように見える髪の毛。キューティクルは肉眼で見ることは出来ませんが感じることは出来ます。それはブローです。髪の根元か毛先に向かってブローすると櫛はスムースですが、逆に毛先のほうからブローすると逆毛になって櫛が進みませんね。これは櫛の方向と逆を向いているキューティクルが引っかかっているからです。

【どうしたら毛玉（ピリング）が出来にくいか】

《　摩擦・連続着用に気をつけて　》

着用することはセーターにとっては摩擦することですから摩擦をなくすことは出来ませんが、なんといっても摩擦の度合いですので激しい作業での着用や何日もの連続着用は禁物です。1日着たら2日ぐらいは休ませてくださいね。特に男性は同じものを何日も続けて着る方もいらっしゃいます。要注意です。

上着で着用しているときは腕の動きなどの摩擦が主ですが、車などのウール張りのシートで背中が擦れてが毛玉になったというケースもあります。案外気がつかないのがセーターに重ね着したときの上着です。裏地の無いツイードなどの上着などは厳禁ですよ。他にも帆布製品などのカバンで擦れてカバンのあたった部分だけが毛玉になることもあります。

《　着用後のブラッシング　》

毛玉が出来る元は繊維が自らからまるケースや異物や静電気で繊維同士がくっついて絡まり始めることがあります。異物と言っても目に見えるようなゴミというより繊維の切れ端などのような微小なものです。これらの毛玉の元を解消させるにはこまめなブラッシングが一番です。着用して仕舞う前にちょっとブラッシングするだけでずいぶん違います。

《　湿気と温度に要注意　》

ウインドブレーカーを着てゴルフしたり、ジャンパー等の内側に着ていて車を運転してシートベルトで押さえた部分が4～5日で毛玉になってしまった例もあります。これはジャンパーで蒸れてシートベルトで圧迫され擦れた典型的な例です。

【出来てしまった毛玉はこまめに取る】

毛玉が出来たら引っ張らないで鋏みなどで切り取るのがベターです、気をつけないとセーターの本体まで切ってしまう恐れがあります（私も切って失敗したことがあります）。この頃は髭剃りみたいな手軽な毛玉取り機が発売されています。結構きれいに取れます。毛玉を取ったらセーターが薄くなるんではと言われる方もいらっしゃいますが毛玉を取る程度はセーターにとっては全く問題ありません。

長年カシミヤのセーターを着用して来ての私の経験ですが、カシミヤは繊細ですがそんなに軟ではありませんので過度に神経質にはなることはないと思います。又、購入して初めの頃は毛玉が出来やすいけど、毛玉が出来る度に取り除いているとそのうちに殆ど出来なくなってしまうことがよくあります。

忙中暇話・ニット屋のたわごと

異教徒と無宗教

異教徒などという言葉は日本ではあまり使われない言葉ですね。30年以上も前、旅行屋の駆け出しの頃、お客様のサウジアラビアのビザの申請書の宗教の質問の欄にｎｏｎ（なし）と書いて、ビザが下りなくて大騒ぎになってしまった事があります。会社のお偉いさんが外務省を通して大使館に説明してもらってやっとビザが下りて事無きを得た事があります。もちろん勝手にｎｏｎ（無し）と記入したわけではありません。お客様に確かめたのですが、『実家は浄土宗だけど俺は別にないなぁ』と言うことで（無し）にしたんですがこれが周りに大きな迷惑を掛けることになってしまったんです。

その後旅行屋として多くの国を訪れ、いろんな人種や宗教の人達と仕事をしましたが、出会った人たちの日常の生活や考え方までもが　宗教が深く根付いていることを　実感しました。

日本人は僕も含め『宗教は別に有りませーん！』と言う人は多いですよね。お葬式にはお寺のお坊さんが来るし、初詣には神社にお参りしたり、教会で結婚式をあげたり、クリスマスにはメリークリスマスとお祝いしてるように、要は宗教に対する考えが淡白なんでしょうね。でも、僕がヴィザで失敗したサウジアラビアだけでなく世界には『無宗教者は得体の知れない奴、危険人物』と捉える人達もいるようで、極端な人は『無宗教の奴は人間じゃない』という人もいます。

世界的に見ると自分の宗教を持っている人がほとんどで、持っていない人は極一部でしょう。キリスト教、イスラム教、仏教、ヒンドゥー教、等々。各々違いは有っても宗教なりの根本的な真理というか底流に流れる物差しを持っている人、だから異教徒でも理解する事はできる。　しかし無宗教というと、何も根底にする価値観を持っていない人、何をやらかすかわからない人で問題外という事のようです。

自分達の宗教には大変なプライドを持っているので、異教徒に寛大であっても、取り入れることは決してありません。ましてや日本のように家に仏壇が有って、クリスマスツリーを飾るなんて全く理解できないようで、『何の為に飾るの』と質問されて答えに窮したこともあります。

しかし、自分の信仰を崇めすぎる為に、他の考え方を卑下した、全く認めようとしない過激な人たちもいます。現在おきている戦争やいがみ合いも宗教や宗派の違いということも紛争の大きな要因の一つだと思います。

『野生のエルザ』というアフリカで野生のライオンとの生活を書いたジョイ・アダムソンさんと一緒に日本を旅しているときに言われたことがありますが、『世界中の人がお互いに理解するには、違いを認め尊重することだと思うわ。だって戦争の当事者にとってはお互いに自分達こそが正しいのだから』。『人それぞれ違って当然、違うからこそ面白いのよ』と言われて目から鱗が落ちたのを覚えています。

世界のホテルを旅する　（十九）

元、旅行屋のお勧め　ザルツブルグ・オーストリア

ホテル　ザッハ　（オスターライヒャーホフ）

今年はモーツアルト生誕２５０年。モーツアルトが生まれた街、オーストリアのザルツブルグは世界中から音楽の愛好者が訪れ、いろんなお祝いやコンサートが催されて賑わっているようです。高校生の頃田舎の島原のレコード屋さんで、生まれて始めて買ったレコードがモーツアルトのピアノソナタだったので特別な愛着が有ります。あのトルコ行進曲の入ったやつです。

もう一つ、この街が世界的に知られるようになったのが映画『サウンド・オブ・ミュージック』ですね。

明快なストーリー、絵の様に美しい風景と可愛い子供達。『ドレミの歌』を始め誰もが口ずさみたくなる音楽。緑の山々や美しい湖もザルツカンマーグートと呼ばれるこの街の周辺で撮影されたもので、まるでザルツブルグの観光協会が作ったかのようにザルツブルグとその週辺の良さが出ている映画ですね。

ザルツ（塩）ブルグ（城）という名前の通り岩塩の交易で栄えた街ですが、街を見下ろす岩山にホーエン　ザルツブルグ城がデーンとそびえ、その麓に大きな伽藍をもつ古い教会、お城の周りを中世の街並みが囲み、街全体が立体的にデザインされた魅力的な世界遺産の街です。

その旧市街を望むザルツアッハ川の対岸にあるのがこの、ホテル　ザッハ。私が泊まった頃はオスターライヒャーホフという名前でした。

一八六六年創業といいますか約百四十年もの歴史を持つホテルで、いわゆるグランドホテルとしてザルツブルグを代表するホテルです。外観はすぐ近くにあるミラベル宮殿に共通する白を基調とし緑の屋根を持つ気品のある建物です。

一歩足を踏み入れると、エレガントな外観に反してかなり重厚な内装と落ち着いた雰囲気ですが、ロビーの中央にある階段の上の吹き抜けから外の日差しが入ってパッと広がる明るさが重厚な内装を和らげています。

毎年夏に開催されるザルツブルグ音楽祭の時は、世界中からＶＩＰが宿泊していて私のような庶民が入り込む隙など有りませんが、この音楽祭の時期を外すとデラックスホテルのわりにはそんなに堅苦しくなく親近感を持てるフレンドリーなホテルです。

このホテルで一番印象深いのが、ザルツアッハ川に沿った屋外のカフェです。サウンドオフミュージックで子供達がドレミの歌を歌いながら遊んでいたミラベル庭園を初め、モーツアルトの生家を訪れたり、ケーブルカーでお城に登ったりと見所の多いザルツブルグの街を朝から一日中歩き回り、疲れた足と興奮した頭を薫り高いコーヒーを飲みながら休めているとき、ふと見上げた目の先に暮れなずむ夕景のなかにライトアップされたホーエンザルツブルグ城が浮かび上がっていました。

昼間、石畳の街を足を棒にして歩き訪れたどの名所よりこのホテルのカフェからみたザルツブルグの街に感動したことが今も頭に残っています。　うと